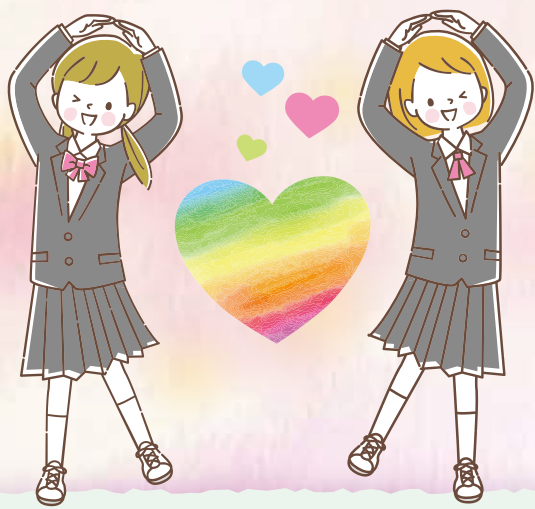




くらしとじんけん

第21集

■ 令和6年7月29日発行
■ 山鹿市人権のまちづくり推進協議会
(事務局 山鹿市人権啓発課) TEL 0968-43-1199

多 様 性 あ ふ れ る ま ち づ く り

一人一人が、心やさしく、互いに助け合い、
人権を大切にする「人権のまち」をめざしましょう

パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度に関する市民アンケート(意識調査)の結果について

「誰一人取り残さない」「選ばれるまち」は、地方創生の重要なキーワードとなっています。人口流出を食い止め、持続可能な山鹿市を創るためには、誰もが安心して暮らせることが大切です。そこで、様々な課題の中から「性的マイノリティ」をテーマに、市民の皆さんの意識を踏まえて、何ができるのかを考えてみました。皆さんからいただいたご意見等を今後の施策に生かしていきます。

1 調査の目的

山鹿市は、市民一人一人の人権が尊重され、誰もが安心して暮らすことができる社会を実現するため、さまざまな人権課題に取り組んでいます。

近年、性的少数者(以下、性的マイノリティ)の人権に対する関心が高まり、全国の自治体で性的マイノリティの人たちの生きづらさを解消するための方策の一つとして「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」の導入が進んでおり、本市でも現在、この制度に着目し、導入の効果や課題の調査に取り組んでいるところです。

そこで、市民の皆さんが「性の多様性」や「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」について現在どのような意識をお持ちであるのかを把握するためアンケート調査を実施しました。

2 実施概要

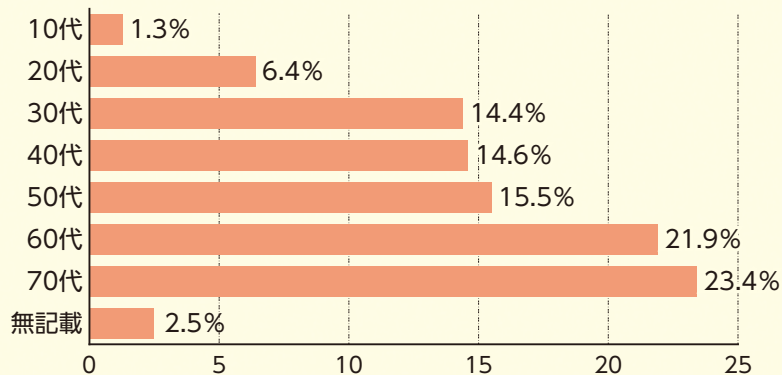
- (1) 対象者
令和5年10月31日現在で山鹿市住民基本台帳に記載されている満18歳以上80歳未満の男女
- (2) 対象者数 2,000人(無作為抽出)
- (3) 調査方法 郵送で調査票を送付し、郵送による返信
- (4) 調査票回収 471件
- (5) 回答率 23.6%
- (6) 調査期間 令和5年11月21日～12月8日

3 集計結果の見方

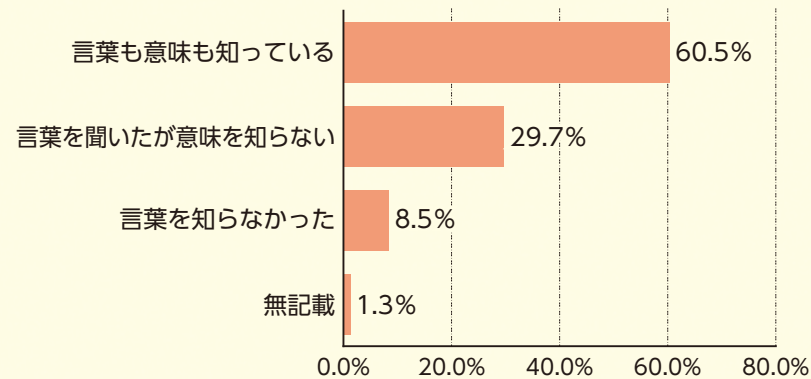
- (1) 複数のご意見のうち、一部を掲載している場合があります。

4 調査結果

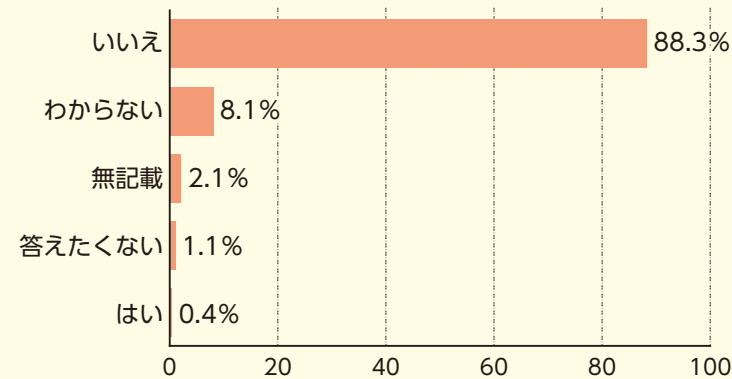
(1) あなたの年齢を教えてください。



(2) 「性的マイノリティ」、「LGBTQ+」という言葉を知っていますか



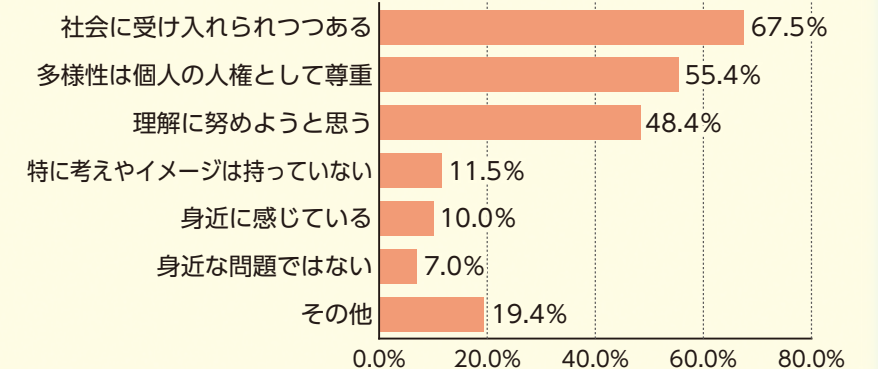
(3) ご自身が性的マイノリティの当事者だと思いますか



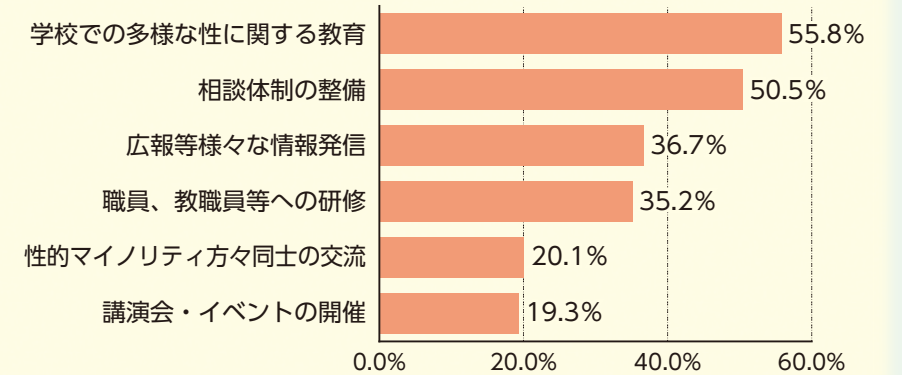
【考察】

- 思っていた以上に「言葉とともに意味を知っている」方々が多いと感じました。ただ、8.5%の方々が「知らない」と答えられていることから、啓発の継続は必要と考えます。
- 性的マイノリティの方は、様々な調査から3～10%という結果が出ています。山鹿市にも、また、私たちの身近なところに性的マイノリティの方はおられるのです。このことから、性の多様性について正しく理解することが何より大切であると考えます。
- 性の多様性とともに、当事者の方々の思いや困り感についても、多くの市民の皆さんに発信していくことが必要であり、当事者の思いを知ること、一人一人何ができるのかを考えるきっかけにしてほしいと考えています。

(4) 性の多様性についてどのような考えやイメージをお持ちですか(複数回答)



(5) 性的マイノリティの人権に対する取組や施策について評価できるものは何ですか？(複数回答)

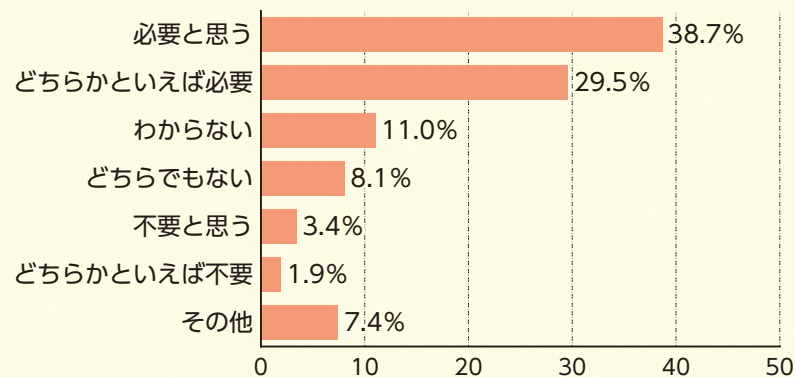


【考察】

- 性の多様性については社会で受け入れられつつある方向へと進んでいるように思います。著名人や芸能人がカミングアウトしたり、様々なメディアでも取り上げられていることが大きいのではないのでしょうか。
- 性的マイノリティの方々の様々な困り感への対応は今後必要であると考えています。山鹿市では、平成30年から、毎年、性的マイノリティ当事者の方々の講演会等を行ってきました。当時者の方々と話してみると、差別や偏見に苦しんできたことが伝わってきます。「誰一人取り残さない」という観点からも、性的マイノリティの方々を含め、様々なマイノリティの方々の人権について今後も考え、施策を進めていきます。

山鹿市人権教育・啓発の取り組み

(6) パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度について、効果や課題を調査研究していますが、導入についてあなたはどのように考えますか？



【必要・どちらかといえば必要と思う】と答えた方の意見

【個人・個性の尊重】人権尊重の視点

- ・性の多様性は個人の特性
- ・個人の権利の尊重
- ・皆一人の人間として対応
- ・個性が尊重される山鹿市がよい

【家族の多様性】固定的な家族のあり方に固執しない考え方の広がり

- ・いろいろな形の夫婦がいていい
- ・多様な家族の形があってよい
- ・家族になれば生活しやすい
- ・誰もが住みよいまちになればよい
- ・多様な価値観を尊重
- ・多様性の世の中みんなが幸せに

【行政の役割】行政には大きな影響力がある

- ・結婚に代わる証明必要
- ・行政の取組で偏見が軽減する
- ・自治体の証明は生活上安心
- ・制度によって理解が進む
- ・自治体の証明は効力大きい
- ・これからの社会の必然
- ・住みよいまちづくり
- ・過疎化対策
- ・反対する理由がない

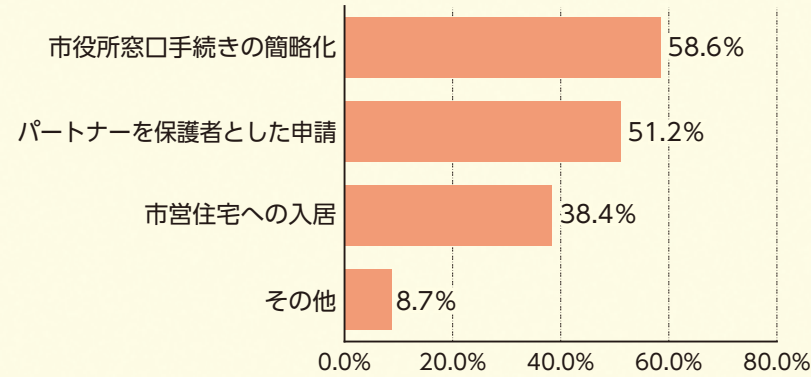
【必要ない・どちらかといえば必要と思わない】と答えた方の意見

- ・無理に宣誓しなくてもよい
- ・私には理解できません
- ・本人たちは必要と思っている？
- ・宣誓に何のメリットがある？
- ・他にもっとやるべきことがある
- ・時間が必要
- ・国がすべき問題
- ・個人の問題を行政が証明しなくてよい

【どちらでもない・わからない】と答えた方の意見

- ・あまり深く考えたことがない
- ・簡単にできることではない
- ・どういことをするか知らない
- ・身近にいない
- ・人の心の問題はわからない
- ・知識も関心も持てない
- ・まだ偏見がある中で、証明する必要はないと思う。

(7) パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度が導入された場合、あなたが考える山鹿市が行うべき行政手続きを回答してください。（複数回答）



性的マイノリティの方からの意見

ご自身が性的マイノリティであることが理由で、これまでに辛かった経験について

- ・親や親族、友人知人、職場等における無理解
- ・差別やいじめ
- ・就業活動や社会（地域）においての無理解、差別、ハラスメント
- ・相談相手の不在
- ・公的書類の記載の内容と見た目の性の不一致による手続きの煩雑さ
- ・性別記載欄で選択する性に戸惑いを感じた
- ・職員・教職員等の知識不足や配慮に欠けた対応
- ・職場で福利厚生等を受けられない
- ・トイレや更衣室等の施設を自認する性で利用できない

性の多様性について NHK「ジェンダーサイエンス」より

私たちの脳は「モザイク脳」！

イスラエルの研究チームが1400人の脳をMRIで調べたところ、男女で大きさに違いがあることがわかりました。同時に、完全に男性寄り、完全に女性寄りと言える人は全体の10%にすぎず、残りの90%の人の脳は「男女モザイク脳」であることがわかりました。

私たちの脳は、生活環境や社会環境、さまざまな人との出会い、交流、学びなどの経験により、脳に影響を与える性ホルモンや脳そのものを変化させ、その結果、男女どちらかには明確にわけることができない、自分だけの「モザイク脳」をつくりあげるのだそうです。

ジェンダーは、私たちを男か女の2つの枠に押し込めようとしていますが、私たちの脳はそうではないということのようで、脳は体ほど明確に、男か女のどちらかではないということがわかってきました。

性的指向に関してもグラデーションになっていて、生物学的には誰もが性的マイノリティになりえるということです。だから、同性愛であることは別に特殊なことではないのです。

つまり、性の多様性は自然であり普遍的なことといえるのではないでしょう。

男女共同参画

本市では、令和4年に第3次山鹿市男女共同参画計画の策定にあたり、令和3年に市民意識調査を実施しました。調査の結果から「①固定的性別役割分担意識の解消、②行政としての啓発・広報の充実、③DV・デートDVの状況把握と対応の3つが課題として見えてきました。

中でも、固定的性別役割分担意識は若い人が転出している原因の1つとなっており、地方自治体の抱える課題と大きく関係しています。

そのため、人口減少に歯止めをかける1つの要素として、性別役割分担意識の解消を目的としたフォトコンテストを令和4年から毎年開催しています。また、男女共同参画社会が身近なものだ、もっと多くの方に知っていただくため、令和6年度は8月25日（日）に山鹿市男女共同参画フォーラムの開催を予定しています。

男女共同参画フォトコンテスト

募集作品：家庭の中で、年齢や性別等による役割分担、社会制度にとられず、家族みんなで家事などを協力している姿・光景を撮影した写真（デジタルデータ）

募集期間：令和6年5月10日から9月13日まで

募集方法：インターネット申し込みまたは郵送、持参

※詳細は山鹿市のホームページをご確認ください。

新市誕生20周年記念事業

令和6年度山鹿市男女共同参画フォーラム

日時：令和6年8月25日（日）午後1時から4時まで

場所：山鹿市民交流センター

内容：高校生の意見発表、講演、トークセッション

隣保館 つながる・支える・認め合う

隣保館は、人権問題解決のための人権啓発の拠点であり、福祉の向上や交流促進を目的とした施設です。

今年度の教養講座受講生の声をお届けします。

- ・絵手紙教室でお世話になって7年目になりました。教室でみんなと会って話したり、書いたりすることで、絵手紙が大好きになりました。先生にアドバイスをいただき教室で集中し作品を作っていく中で、自分のよさに気づくなど、自分自身を見つめる時間になっています。絵手紙教室は、私にとって「自分探し」の貴重な時間です。

- ・70歳で仕事を辞めて毎日の休みをどう活用しようと考えていたところ広報やまがの隣保館教養講座の記事を見て、申込をしたのがきっかけです。カラオケ教室では人とのふれあいを大切にしている、気軽に楽しく歌えます。新しい曲にチャレンジすると脳が活性化してくるようになります。

